

第 11 号(2002.4.20) 発行国絵図研究会

〒310-8512 水戸市文京 2 丁目 1-1 茨城大学教育学部小野寺研究室

TEL & fax 029-228-8294

国 絵 図 ニュース

土佐での国絵図研究会について(第 1 報)

桜の季節も終わり、五月の連休を迎えようとしています。会員の皆様にはご清祥のことと存じもうしあげます。

さて、渡部淳先生(土佐山内家宝物資料館)にお世話いただき、土佐での研究会を計画中です。各所蔵機関の都合により、今後変更があるかも知れません。その点をお含みおき下さい。また、下記のように 3 箇所在所蔵機関に史料が分散しています。1 箇所に集めて見学するか、3 箇所を訪問するかも現在検討して頂いております。第 2 報を楽しみにお待ちしております。

■ 開催日 平成 14 年 9 月下旬

■ 史料閲覧交渉機関

◎土佐山内宝物資料館(協力決定)

慶長国絵図関係文書・正保日本図(写)・土佐・阿波元禄国境縁絵図・土佐・伊予元禄国境縁絵図

◎高知市民図書館(交渉中)

元禄土佐国絵図(控)

◎高知県立図書館

元禄国絵図縮図

本年度の会費を徴収します。

同封の郵便振込用紙でお支払いください。国絵図研究会は、皆様の会費によって運営しております。ご協力ください。

一般 2,000 円 学生・院生 1,000 円です

※ 研究会の会計は、上原秀明先生に担当して頂いております。

※ 口座番号は 00220-3-69958 加入者名上原秀明です。

世の中の A4 時代の波に乗り遅れないように国絵図ニュースも紙面を一新しました。用紙も少し厚めにしましたので、多少はデラックスになったのでは・・・と思います。これからも読み易い紙面を目指したいと思います。

伊能忠敬記念館蔵下総国絵図の検討

佐々木克哉（國學院大學大学院生）

はじめに

千葉県佐原市の伊能忠敬記念館には、大日本沿海輿地全図作成時に、忠敬が幕閣の支援者である堀田正敦（若年寄、近江堅田1万石）を通じて借り出したと思われる国絵図の写本が現存している⁽¹⁾。ここでは、2001年2月に実施された国絵図研究会における絵図熟覧の成果をもとに、下総国絵図（108諸國大地図（水色表紙）- 6、183×194、）に関する若干の考察を試みたい。

(1) 概要

下総国絵図（以下本図）は、国高の記載や、椿新田（寛文11年開発）・飯沼（享保11年開発）の描かれ方から、元禄国絵図の写本だと思われる。縮尺は、「本図図式一里六寸」「此図図式三寸一里」とあり、半縮尺の写本であることがわかる。国立公文書館蔵の元禄国絵図と比較してみたい⁽²⁾。

絵図上の地物は、村名と河川・道筋・城・寺社が描写されており、樹木と一里塚の記載は省略されている。また城と寺が景観描写されているのに対し、神社は記号（鳥居）で記されている。道筋は、元禄図にない木下街道や佐原～銚子間の街道などが記されている。これらの色分けは、海と河川・湖沼が青で、道筋が赤なのに対し、隣国や村形は無着色であり、元図の豊かな彩色は省かれている。

絵図上の文字は、国境の記載が元禄図とほぼ同じだが、元禄図が50か所なのに対し、本図は34か所にとどまる。また郡別の高記載は、岡田郡以外の11郡が記されており、写し間違いと思われる若干の誤差（印旛郡；61568. 29923→61568. 29933、匝瑳郡；30167. 94520→30167. 94511）が認められるものの、元禄図に近い数値が記されている。しかし、郡別の高と村数を示す余白部分（罫紙）の絵図目録は省略されている。

概観する限り、朱書による村名の加筆・訂正が多く、元禄図や郷帳に記載のない村名が加筆されているケースも見受けられることから、精度の良い写本とは言い難い。

(2) 余白の文書について—松平定信発給老中証文

本図の余白には、色分けの凡例と縮尺のほかに、以下のような文書が転載されている。

【史料1】

私記

地理糺絵図御出役

御普請元	三谷左一兵衛
郡代附	荒井平吉
御裏御門番同心	小林源之助
御小目付	宮崎善八

御証文

馬三疋從江戸安房・上総・下総国迄上下并於彼地御用中幾度茂可出之、是ハ地理糺絵圖為仕立^(マ)与

御普請役元三谷左一兵衛・郡代組附御普請役格荒井平吉・西丸御裏御門番同心・出役小林源之助罷越付而相渡之者也

寛政五丑

五月 越中 印

この文書は、寛政5年5月に松平定信により発給された老中証文で、「地理糺絵図御出役」が、江戸から安房・上総・下総の廻村先で無賃人馬を使役する特許を示すものである。このことから、本図と、寛政5年におこなわれた勘定所役人による下総巡視との関連が考えられる⁽³⁾。

(1) 礪永和貴氏の御教示による

(2) 請求番号：特83-1-34

(3) 房総巡視に関しては、筑紫敏夫氏の研究を参照した。（同氏「寛政改革における幕府の房総廻村について」—『千葉中央博物館研究報告 人文科学』第5巻第1号、1997、pp.43-67.）

寛政5年1月、老中松平定信は異国船到来に備え、勘定奉行久世広周らに相模・伊豆・駿河・安房・上総・下総・常陸の海岸巡視予備調査を命じる。これをうけ同年3月から4月にかけて定信自身による相模・伊豆巡視が行われる。当初の目的にあった上総の巡視は、地理不案内などを理由に延期している。これを受け、同年8・9月、延期になった上総⁽⁴⁾に加え、下総の巡視も実施されていることが、前掲史料に記されている「地理糺絵図御出役」4人を宛所にする村明細帳の存在から確認できる。当該時期の村明細帳は、下総国各地に残っており、8月の香取郡須賀山村⁽⁵⁾・埴生郡成田村⁽⁶⁾、また9月22日には、海上郡塙村から飯岡村の廻村を行なったことが明らかである⁽⁷⁾。これら一連の巡視は、海防施設を設置するための現地調査であるのに加え、「地理糺」の言葉が示す通り、幕府勘定所主導による、日本地理の再掌握を意図するものであった⁽⁸⁾。

では、寛政5年の巡視と、本図作成の経緯とは、どのような関連があるのであろうか。

(3)「御国総図」の利用について

老中松平定信は、安房・上総・下総について以下のような認識を持っていたことが分る。定信が巡視中に、同じく巡視に同道していた勘定奉行兼関東郡代久世広周に宛てた書状から見ていきたい。

【史料2】⁽⁹⁾

寛政五年三月廿五日、松平越中守より久世丹後守に渡す書取三通

(中略)

三通之内、

房総之事

房州二総御備場之儀、勝浦等は此度見分いたし候事には候得共、一体房州杯一国地理不案内故、急速考に及び不申候に付、巡見もいたし可申哉とも存候得共、已に豆州杯は画図も有之故に考も付申候、一ト通巡村いたし候とも、中々分り候事には無之候に付、一向に房二総之図、御国総図を本にいたし、国中山など記候も、是迄之図は、唯無心に山のかたち計認有之無益候に付、此山高さいかほど、峠上りいか程、此山いつ方之山につゝきなど申類、くはしく向背嶮易まで認入、海なども処々にて浅深を認め、此浦より何方之浦と、いつ方の国見え候などの事迄も書記し、古城跡は其心得にて別画を取立、浦湊船かゝり杯も認、右を本に致しくみ立候はゞ、可然哉と存候事、(後略)

定信は、「房州二総」の順視に際し、新たな絵図の必要性を感じていた。その理由は、巡視を終えた伊豆国に関して、「図画」を利用しても詳細な様子はわからなかったのに、ただ「御国総図」を「本」にした、つまり既存の国絵図の写本を利用することに対し、その不備を指摘している。そこで定信は、山の高低や海の深浅等の情報を「くみ立」ることで新たな絵図を作成することを久世へ提言している。その結果、(2)でみたような巡視がおこなわれたと考えられる。

以上のことから、寛政5年5月発給の老中証文が転載された本図は、同年8・9月の「地理糺」絵図調査に際し、「地理糺絵図御出役」が利用した元禄国絵図の写本であると考えられる。そして、本図に記された朱書の加筆・訂正は、巡視先での作業によるものと思われる。

(4) 課題

寛政期に、松平定信が既存の国絵図の不備を指摘し、勘定所による改訂作業が試行されていた事実は確認できた。しかし、本図から、直接天保郷帳・国絵図改訂に帰結する情報は読取れなかった⁽¹⁰⁾。また、本図は伊能忠敬が幕府から借用したものなのか、或いは譲り受けたものなのかを解明する必要がある。本図の史料批判は、伊能忠敬による国絵図収集の歴史的経緯の解明に委ねられることになる。

(4) 同年8月に夷隅郡川津村外7か村が海丈の書上げをおこなっている(『千葉縣史料』近世篇上総国上、1960、pp.148-154.)

(5) 『千葉縣史料』近世篇下総国上、1958、pp.225-227.

(6) 『千葉縣史料』近世篇下総国下、1958、pp.401-402.

(7) 『海上町史』史料編Ⅱ近世2、1988、pp.554-555.

(8) 白井哲哉「『地理但し』と寛政改革—勘定所の活動を中心に」(藤田覚編『幕藩制改革の展開』山川出版社、2001、pp.87-112.)

(9) 『通航一覽附録第十三』pp.435.

(10) 天保国絵図改訂に関しては、下総国内の名主文書から、関宿藩士による廻村と絵図調査が確認できる。地方レベルからの考察が今後の課題となるであろう。

本の紹介

大阪人権博物館リバティおおさか編

『絵図に描かれた被差別民』発行日 2001年9月18日

問合せ先 大阪人権博物館

大阪市浪速区浪速西3-6-36

Tel 06-6561-5891 fax 06-6561-5995

URL [Http://www. Liberty.or.jp/](http://www.Liberty.or.jp/)

本書は、2001年に大阪人権博物館で開催された第51回特別展「絵図に描かれた被差別民」の展示解説図録である。

絵図には被差別身分の記載がある場合が多い。周知のように博物館などの展示では被差別身分の記載される絵図は敬遠されてきた。今回の展示と本書は、こうした問題について直接的にアプローチしたはじめての企画である。掲載された絵図は、近畿、特に大坂と京都を中心にしている。時代も中世絵図から近世絵図にわたり、手描きの絵図から刊行図までと多彩である。国絵図としては、本会でも閲覧した西宮市郷土資料館の慶長十年撰津国絵図、京都府立総合資料館の正保山城国絵図、神戸市立博物館の正保和泉絵図写など10点である。

絵図研究者は、被差別身分の記載を絵図史の立場からより一層検討していくことが切望されている。絵図の性格による被差別身分記載の相違点や、そこから垣間見えてくる絵図作成者や為政者そして当該社会の被差別身分観についての議論がようやく始まったように思われる。

本書については、福島雅藏先生より情報を頂いた。記して感謝申し上げます。

2002年度の名簿を作成中です。次号にはお手元に届くかと存じます。住所変更などがありましたならば磯永までご連絡ください。

編集後記●佐々木克哉さんに伊能忠敬記念館の国絵図をご紹介いただきました。若い方にがんばっていただき感謝しています。▲編集子の住所は下記の通りです。常時原稿を募集いたします。メールで送っていただきますと大変助かります。

ニュース編集担当・・・磯永和貴 〒837-0912

福岡県大牟田市大字三池 895-1

Tel & fax 0944-53-3777

メールアドレス isonaga@k3.dion.ne.jp